

○「地域の安全」に係る主な意見

No.	意見内容	発言者	区分	発言部会
1	<p>5,000人調査、県民意識調査の方の結果を見ながら、資料6の補足調査の方も見ていくと非常に違和感をまず感じるのが、資料6の地域の安全のところの1枚目のところ。上に表があるわけです。実感が上昇した人の回答、女性が137、横ばいの人249、それから低下した人79ということは、補足調査のほうは実感が上昇している人の方が圧倒的に多い。よくなっている。改めて言いますが、実感が上昇した人というのは137人の回答があって、低下した人が79人しかいないのです。それはこの数字を私が言っているだけで、私が何か評価しているわけではなくて。それで、1つはまずこれ見ていて思ったのは、例えば資料5-2で実感の平均値の推移が分野別も含めて出ている。これは県民意識調査の部分だけなのですけれども、これ補足調査でもこういう数字出したらどういう推移になっているのだろうなというのが一つまず思った。どういう数字が出るのか、あるいは水準自体が全然違う水準になったりするのかなというあたり。前回は、これ部会長の方からも御指摘ありましたけれども、補足調査の方が年齢構成的に現役世代の人が多いのです。そう思って、さらにもう一回地域の安全のところの年齢別のところを見ると、お年寄りという私も入る年代なのだけれども、60代以上のところが下がっているのです。だから、これ見ていてお年寄りが特に不安を感じるようになってきているのかなと、私ぐらいのも含めてねというのをとちょっと思ったりしたのです、比較してみながら。</p> <p>2段階動くことがあるから、数字にしたときにまたいろいろパラレルではない動きになる可能性はありますよね。あと実感の上昇とか低下から抜けている、移動していても抜けている部分があるかと思うので、数字を出したときはまた違う動きになっているのがあり得ると思っている。</p>	谷藤委員	意見	第2回
2	<p>谷藤委員が先ほどおっしゃった、これあり得ることなのですからけれども、ちょっと僕が気になっていたのは、ということはじわっと上がった人よりもがくんと下がった人の方が多いということは、やっぱり何か大きな要因があったのかなというところが思いつかないなというところで、余計混乱したなというところで、すみません、私先ほどどうしてなのだろうというのがそういう趣旨になります。どちらともじわじわと何となく落ちているのであれば何か傾向的なかなと思ったのですけれども、落ちている人ががくんと落ちているためにかなり平均値を下げているということであれば、落ちている人というのは我々が見ていないものを見て、意識が落ちたかもしれないというような。</p>	和川委員	意見	
3	<p>何でそんなに下げ幅が大きいかがということが推測でもそういうことが起きない限りこれだけの数字見ているので、平均値下がるはずがないので、でもこれだけの数字があるのに平均値が下がっているということは、上げ幅よりも下げ幅は大きい人が多いからこういう結果ですよ。ただ、これサンプル数少ないからあまりクロスはできないんだよね。男女ぐらいならできるかな。何でがくんと下がったか、あれですかね、地域別ぐらいなら分かるのかな。</p>	吉野部会長	意見	
4	<p>全体的には微減というところかと思うのですが、資料6-2の分野別実感の変化別を見ますと、上昇した人が137人いて、実感が低下したのが79人しかなくて、これだけ見ると上昇した人が多いわけですね。だとすると、通常であれば上がっているかなと。けれども、平均をすると下がっているということは、低下した人はがくんと下がっていると推測できるかなと、人数が少ないのに全体の平均を下げているということはですね。なので、この③の低下した人の回答というのが微減ではなくてかなり大幅に下がっているというのは、推測するとそれがなぜなのだろうかというのが私の問題意識ということになります。</p>	和川委員	意見	

5	<p>解決策ではなくて、もう一つ情報なのですけども、<u>去年も実はここ下がっていて、去年の理由を見ましたらば自然災害の発生が多いというのは同じなのですけども、去年は2番が交通事故の防止対策が十分ではないと。3番目が社会インフラの老朽化というのが去年の2位、3位の順位でして、今年は順位が、非常に似たり寄ったりなので、誤差の範囲内がというのは別にして、実数だけ見れば今年度はちょっと理由が2位、3位の順位が変わっているというのちょっと気になる</u> など思っている。</p>	和川委員	意見	第2回
6	<p>急に心配になったのは、ここ下がってしまうとあまりよくないのですよね。よくないというのは、全部よくないのだけれども、<u>地域の安全性が脅かされているというのは、政策的にはそこを下支えしないと本来はまずいこと、そういう政策の客観的数字としては刑法犯の発生件数とか出ていると思うが、そこはそんなに上がっていないはずなので、あと心理的に、意識の面で安全性がちょっと損なわれているという気持ちを持つ人がやっぱり一定数いるのだろう</u> など。でも、それが一体どういう方でどういう地域の方なのかというのがちょっと今見えないので、そこが見えてくるともう少し理由が分かるのと、社会インフラの問題と、もう一つは自然災害。交通事故は、でも極端に増えているとも思えない。</p>	吉野部会長	意見	
7	<p>多分歩道が整備されていないとか、そういう日常のことの可能性も</p>	和川委員	意見	
8	<p>昨年、たしか若菜委員さんから御指摘があったと記憶しているのですが、今お話のあった要因のところ、<u>資料6—2の地域の安全の(1)1ページ目、今資料6の方で出している要因として推測される①から③</u>というのはこの実感が低下した方の回答からということによろしいのですかね。ここを見てみたときに、たしか若菜委員さんがおっしゃったのは①と②、つまり<u>上昇した方、横ばいの方との差で見た方がいいのではないかと</u>たしか御意見をおっしゃったような記憶があるのです。例えば横で見えていくと8番の自然災害の発生、これは皆さんも本当に同じぐらい。これはほぼ多分どの世代の方、この元を見てもそんなに大きく変わらないのですけれども、もう一つの次の9、<u>自然災害に対する予防、これはやはり低下した方の割合が少なくとも総体的には高い。かにこれは2つ目としてあり得るのではないかと。</u></p> <p>3つ目になると、簡単に実数として一番上の犯罪の発生状況は高いのですけれども、ただ一方で<u>総体的に横で見ると13番の社会インフラのこれが2倍、3倍という形になっていると。</u>母数が多いわけではないでしょうけれども。</p> <p>ということを見ると<u>実感が低下した方の回答、実は実感が低下した方が何に着目しているかということになると、むしろ社会インフラの方が多いというように見えるかと思うのですが、こういうことなのでしょう。</u></p>	山田委員	意見	
9	<p>資料5—2の<u>住まいの地域を安全と感じますが、ジグザグしている</u>のです。ずっと低下しているのではなくて、<u>何かがあった年は多分落ちてというか、私の感覚はそんなに深刻なのかなと、そこまで深刻ではないのではないか</u>と思った。では、山田委員が言ったインフラの老朽化というのは何かないかなと思ったら、<u>昨年も今年も雪のせいかなと、推測の域から出ないのですけれども。</u></p> <p>雪があんなに多かつたら年配の方々が骨折とか気になるかなと。出かけられない。</p> <p>あるとすればですよ。これは全然何の根拠もないのですけれども、推測の域しかないので、それと私が強く思ったのはこの分野に関しては先ほどの地域とのつながりと比べてすごくずっと低下していないような気がして、こっちは、言葉悪いですけども、まだましなのかなと。</p>	Tee委員	意見	
10	<p>構造的変化ともあまり思えないような動き方だと。<u>気象の問題とか、その年に突発的に起こっている何かが評価というか、実感に影響を与えていない可能性もあるだろうと。</u></p>	吉野部会長	意見	

11	<p>そうですね、ここサンプル少ないからね、数字だけだと分からないから、そういう社会状況を考えなければいけないと。ただ、数字の動きは構造的な、さっきの地域社会とのつながりの動きとは違うのではないかなと言えるのではないかと。</p>	吉野部会長	意見	第2回
12	<p>今のティー委員の御発言、非常に私もいかにもと思ってしまったところがあって、1つはこれ<u>調査が1月の下旬から2月の初めにかけてやっている</u>のですね。実際に私もこの60歳以上の区分に入ってくるんですが、<u>滑って転んで骨折する、これ一番怖い</u>のです。実際私もまだ50代のときでしたけれども、骨折したことあるので。</p> <p>冬場、特に雪が積もって日中解けて、次の日の朝にてかてかに凍ってしまって非常に怖いです。まちなかだと意外と歩道を融雪しているのです。そういうところだといいのだけれども、<u>ちょっと横道に入ると非常に状況が悪い。そういう状況に引っ張られて実感が低下しているというのは大いにありそうな話だなと思った。</u></p>	谷藤委員	意見	
13	<p>ちょっと実感ですけども、<u>2016年の台風が来たときに岩泉が大変被害に遭ったときも、あるいは普段はあんなことが起こらないのにとみんな思っていて、まさか川が、津波よりひどかったとかいろんな御意見があったけれども、そういうことが一回起こってしまうとすごく不安感が高まる</u>し、ちょっと身の回りの安全と言われたら、ううむということも起こるね。<u>犯罪の発生件数だけでは分からないようなところもここは感じていらっしゃる方がいるのかな</u>と。雪の被害とかというのは統計的なデータは取っているのでしたか、客観値の方は。犯罪発生件数はあったような気がします、あまり。</p> <p>今のお話からすると、<u>年配の方たちの心配というのが結構出ているのではないかなという実感だったと思うのです。それで、こここのところで県央と、それから沿岸で年配の人たちがもしぐっと他の広域圏と比べたときに出てくるのならば、これは沿岸とか県央という問題ではなくて、高齢者がたくさん答えたところの問題と見立てることができるのかどうか、見立てることができるのではないかな</u>と思ったところなんです。</p> <p>高齢者の多い地域に対する対策という発想でいくのか、沿岸特有のとか、県央特有の対応という違いが性格的には判別ができるかもしれないと思ったものですから、広域圏別、年齢別、特に高齢者の比較で見ればいいのかかなと思った。</p>	吉野部会長	意見 資料2-③-2	
14	<p>今の話はSPSSで条件をつけて多分できると思うのですがけれども、そのときに、私は今資料5-2の住まいの地域の安全を見ているのですがけれども、限定して、<u>私的には50代から70代以上の人たちをピックアップして、50代を高齢というのは、私も入ってしまうのですがけれども、それどう変化があるかどうかを見た方がより見やすいのかな</u>と思った。</p> <p>実際何でそういうことを言ったかという、この資料5-2を見ていたら、実は有意確率は0.06なので、結局この辺も怪しいということにはなるのです。ちょっと怪しいなとちょっと思って、場合によっては本当にそういう傾向あるのではないかなと思いました。実際は広域圏でも県北の方が有意確率が0.06なので、寒いところ、沿岸は寒くないとは言わないのですがけれども、<u>寒いところが、より雪降るところがちょっと問題ありそうな気配があると思えた</u>ので。</p>	Tee委員	意見 資料2-③-2	

15	<p>今のを見ているとクマが出てきましたね。これ起こっているのですよね、確かに野生動物の被害総額でとっているんだったかな、農産物の。結構これも無視できない、件数としては大量ということではないかもしれないけれども、不安感というのが結構ありますねという感じで、野生動物対策なんかも本来はじわじわと来るし、何かこれも当たり年と外れ年があるんですって。<u>クマが出やすい年とクマが出にくい年があって、必ずしもこうやって上がっていくわけではなくてというのを考えると、発生件数が多い年は怖いねということが起こるのですかね。</u>結構な被害総額出るのですよね。だから、安全性というのは必ずしも経年的にトレンドでよくなる、悪くなるというものだけではない可能性も若干あるのと、そうはいつでもやはり<u>高齢者とか地域の関連性が調べてみなければ分からない</u>ですけれども、あり得るかもしれないから、そういった年齢層によって感じるものになるかもしれないということで、ちょっと少しここは統計の数値見てからもう一回後で議論したいと思います。</p>	吉野部会長	意見	第2回
----	---	-------	----	-----